

## 漢方薬の原料になる「薬草」

### 野菜花き試験場

最近、漢方薬の効果が見直され、国内市場が拡大しています。漢方薬には「薬草」と呼ばれる植物が利用されており、主に中国からの輸入に頼っていますが、日本や中国ばかりでなく、欧米でも「薬草」の需要が高まり価格が高騰しています。

中国の薬草生産は、「山取り」と呼ばれる山野からの採集が主流とされています。採集者は、「山取り」した薬草を乾燥・貯蔵しておき、年に数回巡回してくる仲買人に売ることが多いようです。

中国等からの輸入が不安定になった状況を危惧して、漢方薬メーカーは国内での薬草栽培を考えています。長野県は、中山間地が多く、薬草栽培に適しているのではないのでしょうか。

里山に近い遊休農地での薬草栽培が各地で試みられていますが、これらの地域で薬草栽培が進められる理由として、①薬草が自生する環境に近いため比較的栽培しやすい、②薬草全般に野生鳥獣の被害を受けにくい、等が挙げられます。一方、薬草栽培の問題点として、①栽培マニュアルが少ない、②栽培指導者がいない、③機械化が進んでいない、等が挙げられます。佐久支場では薬草生産振興事業の一環として、各種薬草の種苗増殖のほか、薬草苗の機械移植を検討しています。



トウキ苗の機械移植作業風景

担当者	袖山 栄次	電話番号	0267-25-3080
-----	-------	------	--------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[野菜花き試験場ホームページへ](#)